

公立大学法人岩手県立大学総合政策学部による「居心地が良く歩きたくなるまちなか形成に向けた調査」の結果について

1 実施概要

(1) 目的

まちなかの回遊性を高め、居心地が良く歩きたくなる中心市街地の形成を図るための課題を抽出し、今後の事業検討の参考とすることを目的として実施したもの。

(2) 調査地点

令和 7 年度からの実施を予定している都市再生整備計画「盛岡中心市街地地区」（まちなかウォーカブル推進事業）に位置付けている以下の 2 地点を対象に実施した。

【A】市道中ノ橋通一丁目紺屋町線（旧奥州街道）岩手銀行赤レンガ館～岩織ビル跡地

【B】なかのはし 1-1 ひろば（中ノ橋通一丁目 1 番）



(3) 調査方法

岩手県立大学総合政策学部教授 倉原 宗孝 氏指導のもと、学部2年生15名（以下「調査者」という。）に、国土交通省が公表している「まちなかの居心地の良さを測る指標」（以下「指標」という。）による現地調査を依頼した。調査者はそれぞれ3人ずつ5つのグループに分かれて各調査地点における滞在者数並びに通行者数の計測（概ね5分）及び指標の調査項目に沿った評価を行ったほか、当該調査を通して感じた意見等をまとめた。

(4) 調査日程

調査日	調査時間		天候
	A 地点	B 地点	
10月7日（月）	9:15～10:16	10:20～10:36	曇り/晴れ・19℃
10月9日（水）	13:21～13:40	13:45～14:00	曇り・18℃
10月11日（金）	14:00～15:00	15:20～16:00	曇り・17℃
10月12日（土）	12:00～12:45	13:00～13:40	晴れ・20℃
10月13日（日）	11:30～12:00	10:40～11:30	晴れ・20℃

※日程、時間は調査者が任意で設定

2 調査結果

各調査地点の詳細な結果は別紙（指標調査結果詳細①～⑨）のとおり、調査者から出された主な意見等は別紙（個別意見）のとおりである。

ただし、調査地点Bのなかのはし1-1ひろばについて、「北クラキッチン」及び対岸の盛岡城跡公園での「北のクラフトフェア」が開催されていた2日間（令和6年10月12～13日（土～日））は、滞在者数及び通行者数、並びに調査地点での「活動」状況が、平時と比較して明確な差があったため、指標調査の集計をイベント時と非イベント時に分けている。

指標調査の解説

●調査結果詳細①について

調査期間中に調査地点付近に留まっていた（滞在していた）人数とその属性をまとめたもの。

●調査結果詳細②について

調査期間中に調査地点付近を通行した人数とその属性をまとめたもの。

●調査結果詳細③～⑦について

安心感、寛容性、安らぎ感、期待感（定義は下記参照）に分類される設問について、調査者の「主観」及び現地の実際の「活動」状況を比較するもの。両者（関連する設問の評点）の差が少ないほど、調査者の印象と実際の状況が合致しているといえる。

※指標の定義

- ・安心感 不安感を覚えず滞在・活動ができる状態や要因・結果
- ・寛容性 違和感や疎外感がなく滞在・活動ができる状態や要因・結果
- ・安らぎ感 その場所に安らぎを感じ、その場所に留まろうとする状態や要因・結果
- ・期待感 そこで行われる非日常的な活動への期待・喜びを創出する状態や要因・結果

●調査結果詳細⑧～⑨について

現地の土地利用や設備の状況などをまとめたもの。

【A】市道中ノ橋通一丁目紺屋町線（旧奥州街道）

●指標調査結果

（安心感）「空間が綺麗に利用されていて気持ちよく過ごせると感じる」、「気持ちよく食事ができる場所だと感じる」といった空間の雰囲気に関する評価が高かった一方、後述の個別意見でも短所・弱みとして多く挙げられているとおり、道路が狭いことや歩道が未整備であることにより「安心して赤ちゃんを連れてこられる」、「車やバイクの往來を気にせず歩ける」といった歩行者の安全性に関する項目が低評価となった。

（寛容性）「好きな格好で行っても良い」、「一人でも複数人でも過ごしやすい」といった項目が高く、訪れることへのハードルはあまり感じられないようだったが、前出のとおり道路上のスペースが少ないことが関係すると思われる、趣味や仕事、休憩など様々な活動のしやすさに関する項目の評点が低かった。

（安らぎ感）「眺めたいまちなみや景色がある」、「ぶらぶら歩きたい場所」という項目の評点が高く、その場の景色、雰囲気が肯定された結果だった。評点が低かった項目については、安心感や寛容性の評価に共通して、「体を軽く動かしてリラックスできる」、「横になってくつろぎたい」といった道路空間の利活用に関するものだった。

（期待感）「写真や動画に映える」、「友人や恋人と来たい」といった項目は評価が高かった一方、「パフォーマンスができる」、「魅力的コンテンツがある」といった項目は評価が低かった。

●調査者の意見等

長所・強みとしては、前出の4項目別のまとめにもあるような街並みや雰囲気に関するものが出されている。

短所・弱みとしては、人と車の距離が近いことで危険に感じるという意見が全5グループから出され、解決策として、歩道の整備や車道幅員の縮小等が出されている。

特徴的な点としては、点在する駐車場を強みとしたグループと弱みとしたグループが分かれていたことが挙げられる。

●考察

A地点の調査結果の特徴としては、雰囲気の良さはあるが歩道が未整備で車両と歩行者の距離が近いと、歩行者の安全性が低く道路空間の利活用が難しいという点がある。

当該地点は沿道に岩手銀行赤レンガ館、盛岡信用金庫本店、ござ九、紺屋町番屋などの歴史的建造物が立地し、国内外から観光客が訪れるエリアになっており、そのような歴史的資源、観光資源をさらに活かすためには、訪れる人の安全性が確保され、安心して回遊できる歩行者環境整備と、より長い時間滞在したくなる仕掛けとしてソフト事業の展開が重要になる。

これらのことを踏まえると、建築物の移転や用地買収を伴う道路拡幅、歩道新設ではなく、現在の景観、雰囲気を活かしながら、現道幅員の中で歩行者の安全性と居心地を向上するための道路空間やデザイン、整備後の利活用方法について、沿道の事業者や周辺住民等とともに検討し、社会実験等により効果を検証していきながら、ハード整備やソフト事業への展開も見据えて事業を進めることが有効と考えられる。

また、今回の調査においては小規模な駐車場が点在していることに対して見解の違いがみられた点が特徴的であった。具体的には、強みとして「駐車して快適に店を巡ることができる」ととらえた一方、別のグループでは「店舗や広場として活用できる空間が少ない」と弱みとしてと

らえており、両論ともまちづくりにおいて必要な視点である。国土交通省では、まちなかウォークアブル事業における事業イメージの一つとしてフリンジ駐車場の整備を挙げており、その点では、目的地まで多少の距離が生じて行政がまちづくりとして、二次交通の検討とセットで、小規模な駐車場を集約したフリンジ駐車場の誘導を検討すべきと言える。しかし、例えば個人経営の小規模な店舗が多いエリアにおいては、一つの目的地あたりの滞在時間が短い可能性があり、目的地の近隣に数台程度の駐車場が複数点在する方が客、店舗ともに便利である場合も考えられるため、当該調査地点に限らないが、当市のような地方都市の中心市街地において人中心のウォークアブルなまちづくりを進めるためには、まちづくりと連携した駐車場施策について、それぞれのエリア特性を踏まえて検討する必要があると考えられる。

（課題への方針）

- 歩行者の安全性向上と利活用の促進を目的としたハード及びソフト事業の取組
- まちづくりと連携した駐車場整備

【B】なかのはし 1-1 ひろば

●指標調査結果

（安心感）「主観」の項目において総じて高い評価となった。「安心して赤ちゃんを連れてこられる（子供を遊ばせられる）」、「足腰の弱い人や車いす・ベビーカーの利用者が気軽に利用できる」といった項目が4点（満点）となっている。「活動」の状況については、主観で高評価だった項目に関連する項目の評点が低いため、実際には赤ちゃんや子どもを連れてくる人や足腰の弱い人や車いす、ベビーカーの利用者が少なかったようだが、イベント時には「食事をしている人がいる」が満点となるなど、多くの人が当該広場を利用し、交流が行われていたことがうかがえる。

（寛容性）「主観」のほとんどの項目で4点または3点以上となり、かなり高い評価であった。活動の項目においても、「入ること、近づくことをためらわず、その場を利用している」がイベント時、非イベント時ともに高い数値となった。その他、イベント時において「思い思いの時間を過ごしている」、「一人で過ごす人、複数人で過ごす人々の両方がいる」が満点で、非イベント時においても3点弱であり一定数の利用があったことがうかがえる。

（安らぎ感）「主観」の項目において総じて高い評価であり、「緑などに囲まれて自然を感じられる」や「水辺を眺め、たたずんでいられる」などの自然に関する項目のほか、「ぼーっとできる」、「座って休憩したり、くつろいだりしたい」といった施設の雰囲気に関する項目はほぼ満点を得た。活動についても、同様に概ね3～4点（イベント時）となっており、実際に有効活用されていたことがうかがえる。

（期待感）「主観」の項目について、他の指標と比較すると若干低い評点の項目もあったが、満点の項目もあり概ね良好だった。「主観」と「活動」の関連項目を比較すると、イベント時は同様の評点（同様のグラフ形状）となったが、非イベント時は「活動」の評点が主観の半分ほどに留まっており、期待値のポテンシャルがあるとうかがえる。

●調査者の意見等

長所・強みとしては、「景観や音、においなどを楽しむことができる」、「自然の中で人々が集まり、快適に団らんできる」など自然に関するもの、「芝生が気持ちよい」、「座ってゆっくりできる」といった施設に関するものが出されている。

短所・弱みとしては、「建物の陰になっているため、日向が少ない」、「場所がわかりにくい」、「景観が寂しい。中津川が見えない」といった場所の立地に関するもののほか、社会実験として一時的な設置であったことにより「トイレ、自動販売機、ゴミ箱がない」という意見が出されている。

●考察

本調査地点は、社会実験として暫定的に開設した広場であったが、調査者の主観としては全体的に高い評価がなされた。これは主に、植栽やフェンスで道路と区切られた空間としての安心感、場所への入りやすさ（寛容性）、中津川のほとりで対岸に盛岡城跡公園の緑が見えるという自然があることへの安らぎ感が評価されたものと思われる。また、期待感に関係するものとして、誰かと行ってみたいと思う場所としての評価が高かった。

これらの項目を「主観」と「活動」で比較すると、非イベント時の利用者が少なかったことにより、全体的に両者の評点に差が出ている。これは、開設時期が7月末からであり酷暑と重なったことや、開設期間が3か月間と短期間であり、地域に定着するまでの時間が足りなかったことが原因として考えられるが、期間の終盤は、子ども達の利用が徐々に増えていたことから、目的の一つとしていた「子どもの居場所づくり」という点では、一定の成果は見られたと言える。この点については、本整備を見据えて継続的かつ段階的に取り組むことにより、認知度と共に利用者も増加し、「活動」の評点も上がっていくと考えられる。

また、今後の社会実験、その先の本整備を行う際は、広場を補完するトイレ、自動販売機等の機能を配置するとともに、広場との相乗効果が期待される機能を備えた施設の整備や周辺エリアの情報発信及び周辺事業者等と連携したイベント等をハード・ソフト両面で実施することで周辺エリアにおける滞留性及び回遊性が高まるものと考えられる。

（課題への方針）

➤認知度の向上

➤周辺エリアにおける滞留性及び回遊性を高めるための機能の付加

3 各調査地点の課題と想定される具体的な対策（案）

調査地点	課 題	対策（案）	担当課
A	歩行者の安全性向上と利活用の促進を目的としたハード及びソフト事業の取組	・歩車共存道路（コミュニティ道路）の整備による自動車のスピード抑制と歩行者等の安全確保 ・整備後の利活用方法の検討（ガイドラインの策定）	まちなか未来創生室、道路管理課、交通政策課、景観政策課
	まちづくりと連携した駐車場整備	・駐車場整備計画の見直し ・附置義務駐車場に係る基準の緩和 ・外縁部へのフリンジ駐車場の整備（駐車場の集約）	交通政策課
B	認知度の向上	・継続的かつ段階的な取組の実施（社会実験、本整備）	まちなか未来創生室
	周辺エリアにおける滞留性及び回遊性を高めるための機能の付加	・広場に必要な機能の整備 ・広場との相乗効果が期待される機能を備えた施設の整備 ・周辺エリアの情報発信及び周辺事業者等と連携したイベント	まちなか未来創生室、観光課、経済企画課